

I. 総則

1. 日本土壌肥料学雑誌は、土壌・肥料・植物栄養に関する原著論文、解説記事および学会として必要な記事等を掲載する。
2. （投稿資格）筆頭著者または **Corresponding author** は、日本土壌肥料学会細則第 19 条に規定する会員に限る。ただし依頼原稿については、その限りでない。
3. （著作権）本誌に掲載された論文、解説、資料等についての著作権は一般社団法人日本土壌肥料学会に属する。

II. 原稿の種類

4. （投稿原稿）論文、総説、解説、資料、会員のひろばを設ける。
 - ①論文：論文は、報文およびノートの 2 種類とし、いずれも他誌に未発表のものに限る。
 - a) 報文：学術的で新規な知見、独創的な考察、あるいは価値ある事実を含むもの。
 - b) ノート：新しい事実や、研究方法の改良などを含む短いもの。
 - ②総説：研究の進歩の状況、現状、将来への展望などをまとめたもの。
 - ③解説：基本的または応用的主題を分かり易く解説したもの。
 - ④資料：調査、統計、写真等、資料的価値のあるもの。
 - ⑤会員のひろば：研究上の問題、学会活動の在り方などに関する会員の意見発表、情報交換など。
 - ⑥その他：学会記事等、学会活動に必要なもの。
5. （依頼原稿）国の内外における研究の動向、情報を会員に提供するために、編集委員会が企画、依頼をする。依頼原稿の種類は総説、解説、講座、資料および技術レポートとする。
 - ① 技術レポート：現場の問題を共有し研究連携を促進するため、地域担当編集委員が企画し、各地域の研究で得られた知見や開発された技術等の内容を簡潔にまとめたものとし、地域担当編集委員および常任編集委員の査読・審査を受ける。
 - ② 講座：特定のテーマについて、研究の最前線を分かり易く紹介した複数回のシリーズもの。例えば、新たな測定・解析方法、考え方の背景、今後の展開方向等を解説したもの。

III. 原稿の作成、送付および取り扱い

6. (原稿ファイル) 原稿は、本規程および別に定める原稿執筆規程に従い、ワープロソフトや図表ソフトを使って作成する。用紙の大きさは、A4 判で1ページに1行 31 字×28 行とし、行間 5 mm 以上、上下左右のマージンを 25mm 以上とする。また、原稿には通し行番号を付けるとともに、中央下には必ずページ番号を付ける。審査は PDF ファイルで行うので本文と図表は一つの PDF ファイルにまとめる。

7. (原稿の送付) 原稿の送付は所定のウェブサイトから行う。原稿の基本情報および査読者候補（論文の場合、査読者はこれらの候補者の中から選ばれるとは限らない。）を入力した後、上述のファイル、および報文の場合は英文要旨原稿の PDF ファイルを送信する。原稿の送付後、土日休日を除く 3 日以内に電子メールによる原稿受領通知が届かない場合は、電話または Fax で編集部にお問い合わせのこと。

8. (原稿受付日および掲載受理日) 原稿受付日は、所定のウェブサイトから送信が完了した年月日、掲載受理日は原稿の掲載が編集委員会によって受理された日とする。

9. (原稿の規定枚数) 原稿の長さは原則として図表を含めて以下のページ数以内とする（31 字×28 行の原稿 3 枚が約 1 ページに相当する）。報文 7、ノート 3、総説 7、解説・資料・講座 6、技術レポート 4、会員のひろば 1。依頼原稿のページ数は指定することがある。受付時点でページ数の大幅な超過が予想される場合は、編集委員会で検討の結果、著者あてに返却されることがある。

IV. 審査

10. (原稿の採否) 原稿の採否は編集委員会が決定する。

11. (内容の訂正) 編集委員は内容、構成および字句の修正を著者に要求することがある。また、採用が決定した原稿内容を著者が変更する場合は、編集委員会の承諾を得なければならない。

12. (原稿の種類別変更) 編集委員会は原稿の内容によって、あるいは審査の過程で改訂の結果、著者に対して種類別変更を求めることがある。

13. (遅延原稿の整理) 著者に対し訂正を求めた原稿が返却の日より 2 カ月以内に訂正・送付されない場合は取り下げとみなされることがある。

V. 著者校正

14. 著者校正は1回とする。校正は印刷上の誤りの訂正にとどめ、文章等、内容の変更を認めない。

VI.投稿料, 超過ページ代など

15. (投稿料) 投稿原稿については、別に定める投稿料を申し受ける。

16. (超過ページ代) 投稿原稿, 依頼原稿の種別を問わず, 本規程 9 のページ数を超過した場合, 別に定める超過ページ代を申し受ける。

17. (特殊印刷費) 特に申し出がない限り, カラーで入稿された図表も全て白黒印刷とする。投稿原稿, 依頼原稿の種別を問わず, カラー印刷およびアート紙使用などを希望するときは, 実費を申し受ける。

18. (別刷)著者は, 別に定める別刷代によって別刷を買い取ることができる。ただし, 依頼原稿の別刷は 50 部まで無料とする。PDF ファイルは原稿の種類にかかわらず無料とし, 著者に配布する。

19. (問い合わせ)会誌編集に関する問い合わせは下記あてのこと。

〒113-0033東京都文京区本郷5-23-13タムラビル10階 日本土壤肥料学雑誌編集委員会
sfppoffice@jssspn.jp Tel: 03-3815-2085 Fax: 03-3815-6018

付則: 本規程は 2020 年 3 月 1 日以降に投稿された原稿に適用される。

別に定める事項

投稿料: 刷上り 1 ページ 1,500 円(本規程 9 の枚数まで)

超過ページ代: 刷上り 1 ページ 17,000 円

カラー印刷代 (冊子): 1 ページ 40,000 円

別刷代: 刷上り 1 ページ 12 円/部 (部数は, 任意で設定可能ですが, 30 部未満の場合, 単価が高く設定されます)

カラー印刷代 (別刷): 100 部までは部数に関係なく 1 ページ 500 円, 100 部を超える場合は 50 部増刷ごとに 1 ページ 250 円加算

別刷送料: 別途請求

(別刷代金の積算例 6 ページの場合)

例1 モノクロ, 50部の場合 $12 \text{円} \times 6 \times 50 \text{部} = 3,600 \text{円}$

例2 カラー1ページあり, 50部の場合 $12 \text{円} \times 6 \times 50 \text{部} + 500 \text{円} \times 1 \text{ページ}$ (カラー代)
 $= 4,100 \text{円}$

例3 カラー1ページあり, 100部の場合 $12 \text{円} \times 6 \times 100 \text{部} + 500 \text{円} \times 1 \text{ページ}$ (カラー代)
 $= 7,700 \text{円}$

例4 カラー1ページあり, 150部の場合 $12 \text{円} \times 6 \times 150 \text{部} + (500 + 250) \text{円} \times 1 \text{ページ}$
(カラー代) $= 11,550 \text{円}$

例5 カラー2ページあり, 200部の場合 $12 \text{円} \times 6 \times 200 \text{部} + (500 + 250 + 250) \text{円} \times 2 \text{ページ}$
(カラー代) $= 16,400 \text{円}$